

知 識 探 訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

マレーシア国立博物館ボランティアの活動紹介

日本語ガイドグループ



マレーシアの歴史や文化、産業の発展などを通して、この国が形成された経緯を知ることができる (筆者撮影)

マレーシア国立博物館ボランティアズ日本語ガイドグループ(以下「日本語ガイド」)は、2018年に活動10周年を迎えました。そして節目となる年に、平成30年度外務大臣表彰を受賞しました。その記念として今回の「マレーシア知識探訪」では、日本語ガイドの活動を紹介させていただきます。

まずは外務大臣表彰の選出概要から。「マレーシア観光文化省国立博物館局の傘下組織として、同博物館における日本語による無料ガイドツアーを定期的実施し、長年にわたり個人・団体を問わない日本人見学者に対して、マレーシアの歴史及び文化を紹介している。また、それらガイド活動のみならず、新たな日本語ボランティアガイドの養成にも積極的に携わっており、これらの活動を通して日本とマレーシアとの相互理解の促進に寄与した功績は顕著である」ということでした。

日本語ガイドの始まりは2008年です。すでに活動していた英語グループの呼びかけに応じたことが発足のきっかけでした。まずは15人の有志が集まり、5カ月後の日本語ガイドツアー実施に向けての準備が始まりました。しかし、マレーシアの歴史や文化に詳しい訳でもなく、またガイドをすることにしても素人ばかりだったのでまさに手探り状態。そこで日本大使館の専門調査員の方の協力をいただきながら、何とか日本語ガイドツアーを開始することができました。

そして、次の課題であった「後輩の育成」に取りかかりました。その際に考えられた研修スタイルが、1期上の先輩ガイドが研修生に教えるという形式です。研修内容は年々ブラッシュアップしていますが、2期生の育成から現在も同じ形式で研修を実施しています。日本語ガイドの現在

籍者数は50人、累積の在籍者数は約150人のグループになりました。

開始当初の日本語ガイドツアーは週1～2回程度でしたが、現在は週5回の日本語ガイドツアーを提供する他、日本の企業や学校法人などから依頼される団体向けガイドも積極的に受け入れています。毎年恒例の一大企画にクアラルンプール日本人学校の団体ガイドがあります。対象は小学3年生なので、カスタマイズしたガイド内容、例えば展示品の解説だけではなく、マレーに伝わる伝統芸能の影絵芝居(ワヤン・クリ)の寸劇や本物のマレー風の展示解説、王族の頭飾りトゥンコロの展示コーナーではトゥンコロ折りを体験するなど、子どもたちに興味関心を抱かせる仕掛けを取り入れています。

日本語ガイドツアーの参加者は年間で約1,800人。参加者にはマレーシアの歴史に詳しい方もいらっしゃいますが、イスラム教がマレーシアに伝わった過程、マレーシアが植民地支配されていたこと、戦前・戦後を通して日本との関りを知らない方も多くいらっしゃいます。12年連続で「日本人が住みたい国No.1」に選ばれているマレーシアなので、今後もたくさんの日本人が博物館に来られることでしょう。そんなマレーシアを知っていただくお手伝いができるよう、日本語ガイド全員でより一層励んでいきたいと思えます。

最後に通常ガイドのご案内です。毎週月・火・木・金・土曜の午前10時スタート。所要時間は約1時間です。個人で参加する場合は事前予約不要なので、開始前に博物館ロビーにお越しください。ガイド費用は無料ですが、博物館入館料(大人5リンギ=約140円)が別途かかります。クアラルンプールに来られた際は、博物館にお立ち寄りください。お待ちしております。そして最後に、日本語ガイドツアーは研修に多くの講師を派遣いただくなど、日本マレーシア学会(JAMS)をはじめ、多くの知見者に支えられている活動です。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

< 筆者紹介 >

マレーシア国立博物館ボランティアズ日本語ガイドグループ広報・IT係。日本語ガイドグループは、日本マレーシア学会(JAMS)の教育研究賛助会員です。